

中学生版

「学ぶ力」を育む家庭学習（保護者用資料）

～子どものやる気を高め、主体性を育むために～



佐賀県教育委員会



“ほめるから、はじめる。はじまる。”

（佐賀県教育の合言葉）



家庭学習の習慣化で、子どもたちの「学ぶ力」を育てましょう！

「学ぶ力」って、どんな力ですか？

- 意欲や興味・関心
- 挑戦する気持ち
- 粘り強く取り組む姿勢 など

学びに向かう意欲や姿勢



- 自分で内容や時間を決める
- 自分で内容の軽重を判断する
- 自分で取り組む順序を決める など

学び方

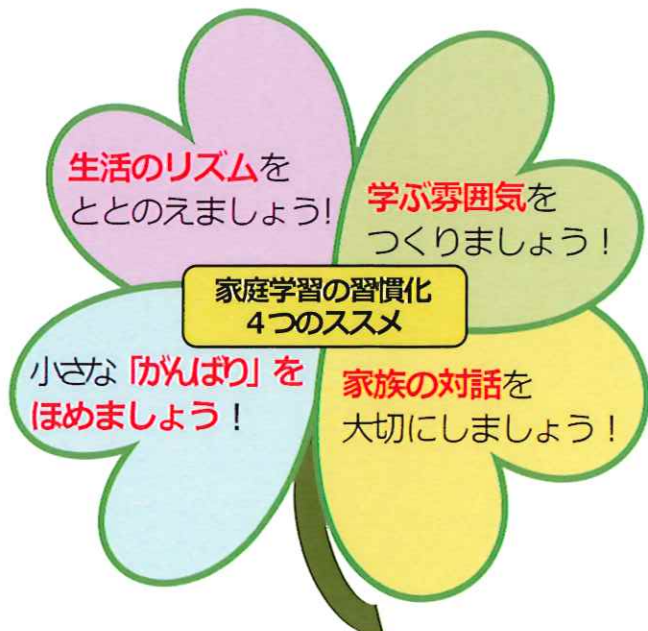


これらは、子どもたちにとって、将来にわたり、自分で考え、判断して、課題を解決したり、いろいろなことに積極的に取り組んだりするために必要な力です。



「学ぶ力」を育てるためには、どんなことが必要ですか？

ご家庭で大切にしてもらいたいことは、クローバーの葉に示した4つです。



効果のある“声かけ”や“関わり方”を、『家庭学習の習慣化4つのススメ』として整理しました。

ぜひ、ご家庭でも取り組んでみてください。

「すぐ使える声かけ例」と「関わり方の例」は [こちら](#)



子どもの「学ぶ力」を高めるための保護者の関わり方

中学生は、様々な葛藤の中で自らの生き方を模索し始める時期です。不安を抱えながら、自立へ向かう子どもたちにとって、保護者の温かな関わりが大きな支えとなります。普段の子どもへの関わり方をチェック☑してみましょう。

□ 学習環境づくりに努めていますか？

・集中して学習できる環境をつくる。

□ 子どもの頑張りを認めていますか？

・学習の成果だけでなく、学習方法を工夫したり、努力したりしている姿をほめる。



□ 子どもの考えを聴いていますか？

・普段の会話の中で理由や考えを聴き、共有する。「どう思う?」「どうしたらいい?」「どうしたい?」

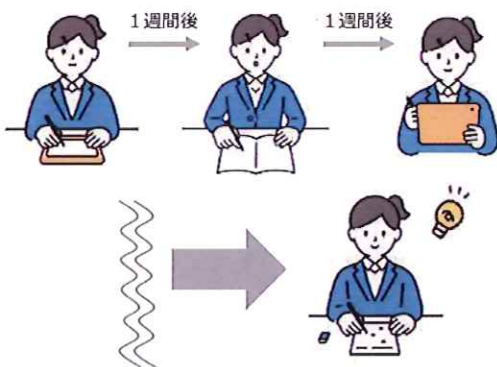
チェックした関わり方は、いくつありましたか？
子どもが「学ぶ力」を育てるために、子どもの今の状況等に応じて、
関わり方を工夫していきましょう。



学習内容をよりよく理解し、定着させる学習方法の例

学習の効果を高めるためには、学習方法を工夫したり、学習内容を振り返ったりすることが大切です。

時間の間隔を空けて復習することで、
長期的に学習内容を定着しやすくする



学習内容を積極的に思い出す練習をする事で、
記憶の定着と新しい状況での応用につながる



※Weinstein et al.(2018)で挙げられている、研究上一貫して良い効果が示されている6つの効果的な学習方法について、
「認知心理学者が教える最適の学習法ビジュアルガイドブック(東京書籍)」を参考に作成された文部科学省資料の一部より

「自分にあった学習方法」を話題にしてみましょう。



これからの子どもたちは、**生涯にわたって主体的に学び続け**、自らの人生をかじ取りする力を身に付けることが重要です。

子どもたちが様々な変化のあるこれからの社会をたくましく生き抜くことができるよう、認めたり、ほめたりしながら**「学ぶ力」**を育てていきましょう。